

■ブラジル：送電系統が電力システムのボトルネックに

2010年10月29日付地元紙は、専門家の意見として同国の送電システムは現在の電力需要に対応できていないとして、送電システムが当面の電力システムにおけるボトルネックになる可能性を指摘し、送電線建設の必要性について報じた。ブラジル連邦エネルギー調査公社（EPE）が最近発表したレポートによると、同国南部の送電線建設への投資を今後数年間行わない場合、2014年に同国で開催されるサッカーワールドカップによる需要増が電力系統への脅威になる可能性があるとしている。また、同レポートでは南部の送電システムだけでも5億7,200万ドル（約460億円）の投資が必要であるとしている。全国電力系統運用者（ONS）は総額28億リアル（約1,350億円）を投じて、2013年までに送電線31ルート、変電所108カ所が建設されるとしている。しかし、この計画はGDPの伸び率を年平均4%として策定されている。実際は2019年までのGDPの伸び率は年平均5%として見直す必要があるのではないかとしている。